

まもれ！みどりのたいち

1



ナレーション

二千五十年「これはみんながお父さんやお母さんになつていてる頃のお話です。

町には車がいっぱい。大渋滞。

おかげで車と車が「ごつごつ」と。車とみんなも「つん！」。

救急車のピーポーくんは大忙しです。

2



ふじおくん

「この頃、せきがいっぱい出て困っているんだ。コホン！コホン！」

ナレーション

ふじおくんは毎日うがいをしているのに、せきが止まりません。

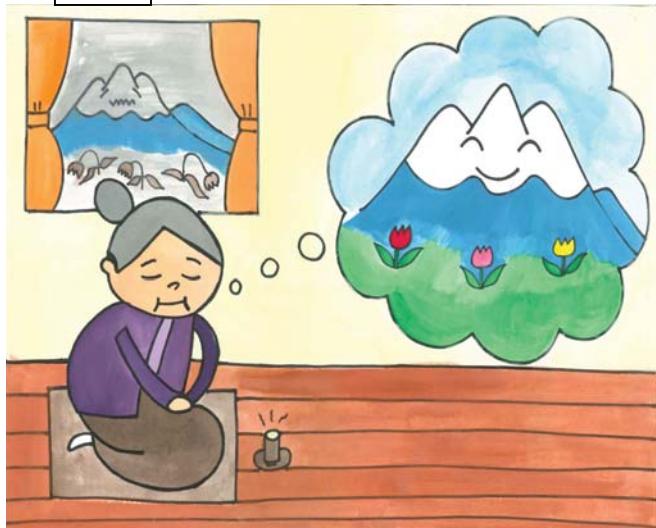
たけしくん

「目が痛いよー。」

ナレーション

たけしくんは目がまっかつかです。

3



おばあちゃん

「わたしが子どもの頃は、富士山がとつても綺麗に見えていたのに、今はすっかりお空が汚れてしまつて…」

昔は、富士山に登る人もたくさんおつたんじゃよ。
わたしもじいさんと一緒にきれいな景色を眺めたもんじゃった。」

4



煙怪獸ガース

「わっはっは！ 煙はうまいな。どんどん大きくなつて、町を壊してやる！」

たけしくん

「大変！ 煙怪獸ガースにお山の木や花をめちゃくちゃにされちゃつたよ！」

ナレーション

町の人たちが出てきて大騒ぎです。

ふじおくん

「二のままじや、もうすぐぼくたちの町も壊されちゃうよ！」

5



たけしくん

「どうしてあんな怪獸が現れたんだろう。」

ガシャーン！ バキバキ！

「おばあちゃん、あの怪獸をやつつける方法はないのかな？」

ふじおくん

「おばあちゃん、あの怪獸をやつつける方法はないのかな？」

6



おばあちゃん

「煙怪獸ガースは、工場や車から出る悪い煙を食べて大きくなる、こわい怪獸なんじゃよ。」

煙怪獸ガース

「煙はうまいな。たくさん食べて、もっと大きくなつたら、地球が壊れてみんな死んでしまうかもしれないのう。」

おばあちゃん

「これ以上大きくなつたら、地球が壊れてみんな死んでしまうかもしれないのう。」

ふじおくん

「そんなの嫌だよ！」

みんな

「富バスくん、ぼくたちを助けて！」

7



宮バスくん

「みんな！ぼくに任せて！煙怪獣ガース、お前の好きにはさせないぞ！おーい、電車ドン！一緒に煙怪獣ガースをやっつけるぞ！」

8



電車ドン

「みんなはいつもおうちの車に乗っていたけど、バスや電車に乗るようになれば、煙怪獣ガースの大好物の煙が減つて、町も僕たちも助かるはずさ！」

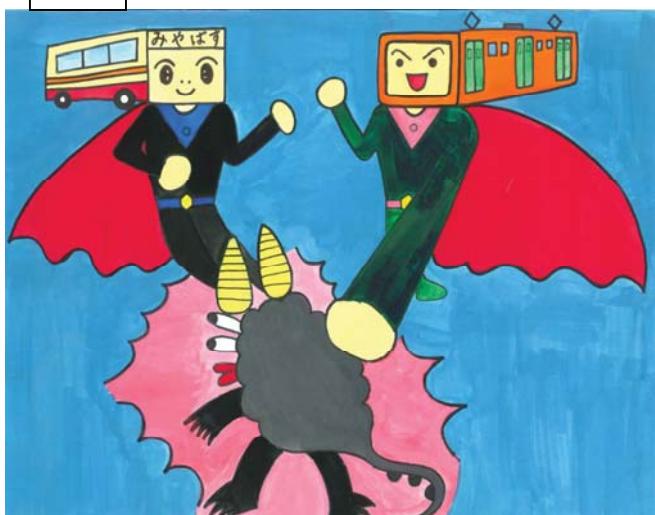
宮バスくん

「さあ、みんな僕たちに乗つて！」

ナレーション

大好物の煙が減つて、煙怪獣ガースはお腹をすかせてすっかり小さくなつてしましました。

9



宮バスくん

「電車ドン！最後の攻撃だ！」

電車ドン

「超高速レールパンチ！」

宮バスくん

「必殺エコキック！」

煙怪獣ガース

「やられた！」

ふじおくん

「あつ！煙怪獣ガースが小さくなっちゃつた！」

宮バスくん

「これからもみんながぼくたちに乗つてくれたら、煙怪獣ガースはもう現れないよ。」



おばあちゃん

「あれまあ、富士山がきれいに見えてきたのう。」

ふじおくん

「車が減つて、みんなに「」に「」しているね！」

たけしくん

「煙怪獣ガースもいなくなつたよ！」

ふじおくん

「山にもお花がいっぱい咲いてるよ。みんなで乗つたら楽しいね。」

みんな

「富バスくん、電車ドンありがとう！」